



学校教育目標：心やさしく 進んで学び たくましく生きる子どもの育成

今年の干支は羊(未)。のんびりと牧草を食べているように見えて、実は地道に仕事をしているのだそうです。適度な力で地面を踏むことによって、牧草の種を植え付け荒れた草原も肥沃な牧草地に変えてしまうそうです。



私達、神浦小学校職員も「泰然自若」。地に足をつけ、慌てず騒がず、落ち着いて、かつ、しっかりと地道に、そして着実に、教育活動を進めていきたいと思えます。

『自分の可能性にふたをしない限り、
年齢は関係ない。』



これは今年の4月1日から将棋の「プロ棋士」になれる広島は今泉 健司さんの言葉です。

年末、新聞で「今年の4月1日、戦後最年長のプロ棋士が誕生します。」という記事を見つけました。今泉 健司さんは、14歳でプロ棋士養成機関「奨励会」に入会以来、何度も挑戦と失敗を繰り返し、27年の月日をかけて、とうとう「プロ棋士」という夢を叶えられたのだそうです。



昨日、1月8日は今年度後期後半のスタートの日。

全校朝会では、子ども達に、この今泉さんの話題をもとに話をしました。

【1月8日 全校朝会講話 要旨】

今泉健司さんという方が、プロ棋士になる。年齢は41歳。プロになるのに27年かかった。27年がかりで夢をつかんだ。「夢を持とう」「夢を叶えよう」とよく言いますが、現実には厳しく大変で、叶わないことの方が遥かに多い。大抵の人は途中であきらめてしまう。何年も何年も上手いかなければ尚更。でも、今泉さんはやめなかった。あきらめなかった。ずっと努力と挑戦を続け、27年かけて夢を叶えた。「自分の可能性にふたをしない限り、年齢は関係ない」これは今泉さんが言った言葉。可能性とは「実現できる見込み」のこと。何かが出来るとなったり、わかるようになったり、何かになれたりする予想ということ。「可能性にふたをする」とは、何かをやる前、あるいはやり遂げる前から、「自分には出来ない」「自分には無理だ」などと決め付けて、挑戦しなかったり、挑戦してもすぐにやめたり、あきらめたりすること。誰でもそう思ったりする。みんなもそう思ったことがあるかもしれない。でも、今泉さんは違った。そう思わなかった。27年間、あきらめずに努力を続けた。だからこそ、念願のプロ棋士になれた。

他にもそんな方々がいる。例えばプロ野球。今年50歳になるピッチャーがいる。(中日ドラゴンズ 山本 昌選手)。42歳でレジェンド、伝説と呼ばれ、いまだに活躍するスキージャンプの選手がいる。(葛西紀明選手)

いくつになっても、何才になっても「自分はまだまだやれる」と、自分の可能性に決してふたをしない人たちである。

若いみんなには、時間がたくさんある。大きな大きな可能性がある。自分で自分の可能性にふたをせず、どんなことも、簡単にあきらめず、努力を続けて頑張る3ヶ月、一年にしよう。

子ども達の可能性を広げるためには、知識や経験等、様々な引き出しを増やしておくことが大切です。また自立心や主体性をより一層育てなければなりません。そのために今年も努力していきます。